

長野県における ひきこもり支援の現状と課題

～市町村、自立相談支援機関、民間支援団体への実態調査結果より～

長野県精神保健福祉センター
(長野県ひきこもり支援センター)

目的と方法

- ひきこもり支援センター（以下センター）開設後10年目を迎え、県内のひきこもり支援の現状と課題を探り、今後の支援のあり方やセンターの役割について検討を深める。
- 令和元年度11月に県内の市町村、自立相談支援機関（生活就労支援センターまいさぼ、以下まいさぼ）、民間支援団体を対象に調査を行った。
- 調査票回収率は
市町村 100 %（77/77市町村）
まいさぼ 87.5%（21/24か所）
民間支援団体 28.6%（10/35か所）

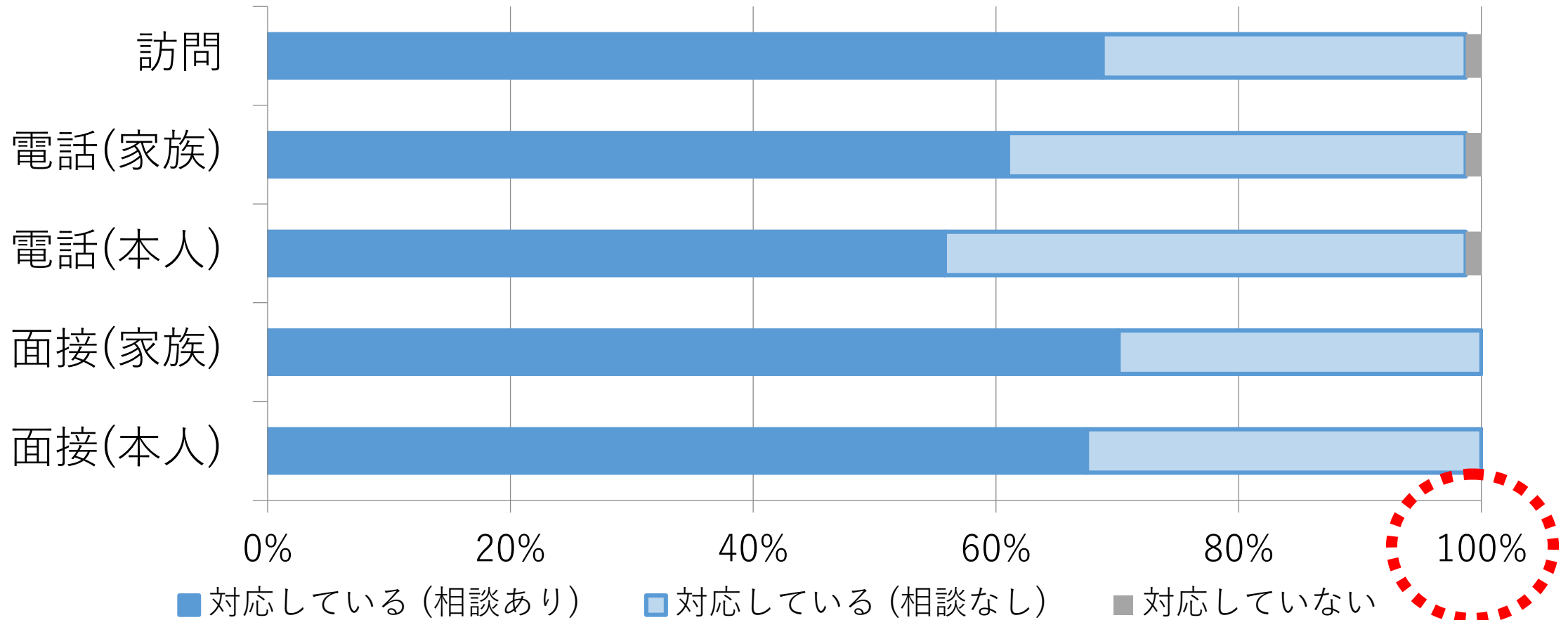
調査内容

- (1) 平成30年度に行った支援の実績（支援延べ件数）
面接、デイケア・グループ、訪問、電話相談、メール相談
- (2) 平成30年度の当事者支援の対応状況
医師による精神保健福祉相談、面接、電話相談、
手紙・メールによる相談、デイケア・グループ等
- (3) 平成30年度の訪問支援の対応状況

調査内容

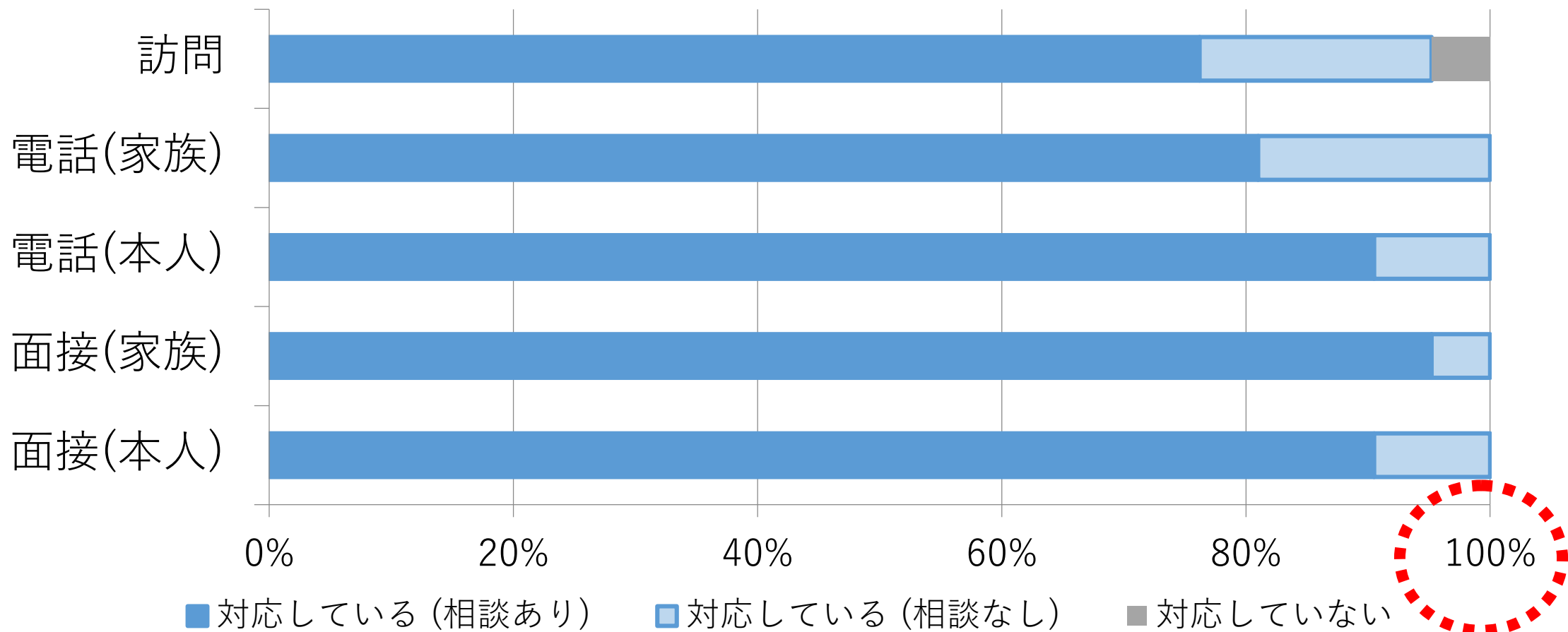
- (4) 平成30年度のひきこもりについての講演会、家族教室、ケース会議の開催や広報等の対応状況
- (5) ひきこもり支援における連携先（複数回答）
- (6) 当事者支援の課題について（自由記述）
- (7) 好事例について（自由記述）
- (8) センターへの要望、ひきこもり支援を実施するために必要なバックアップについて（自由記述）

市町村における個別相談の対応状況



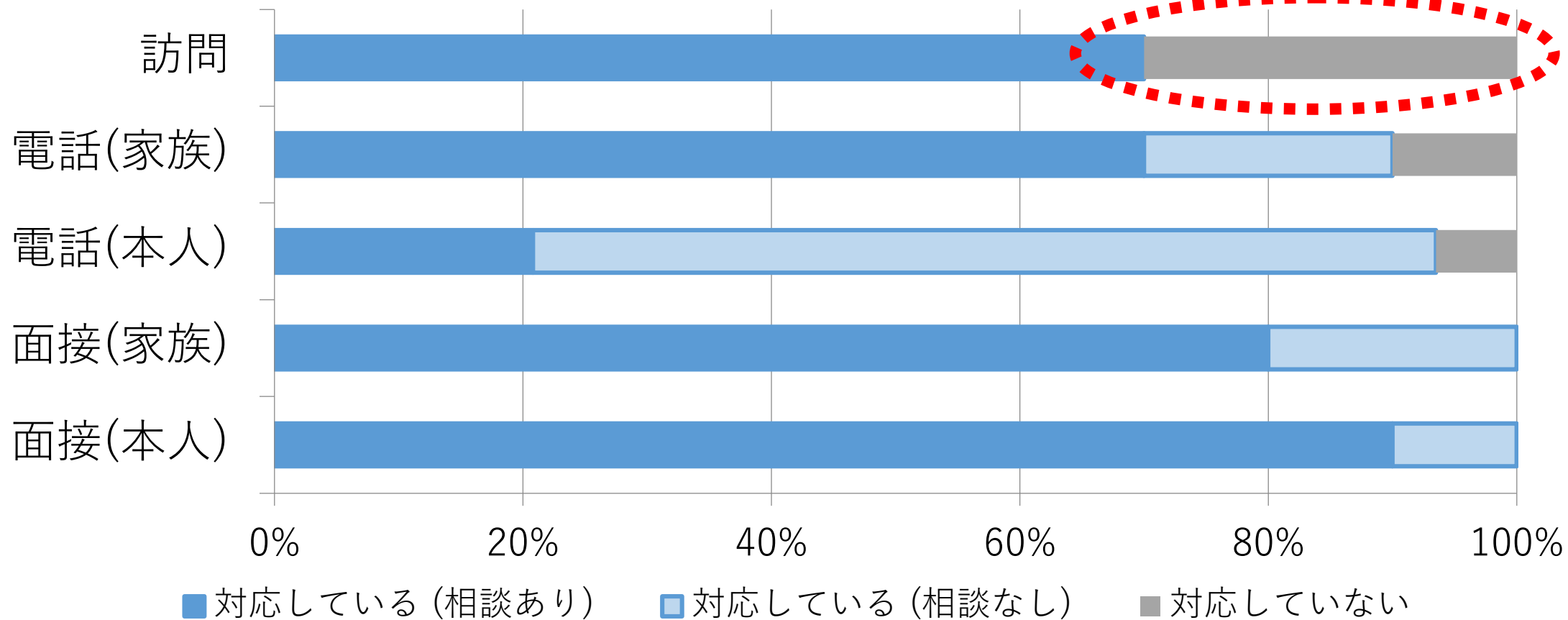
ほぼすべての市町村で個別相談に対応している

まいさぽにおける個別相談の対応状況



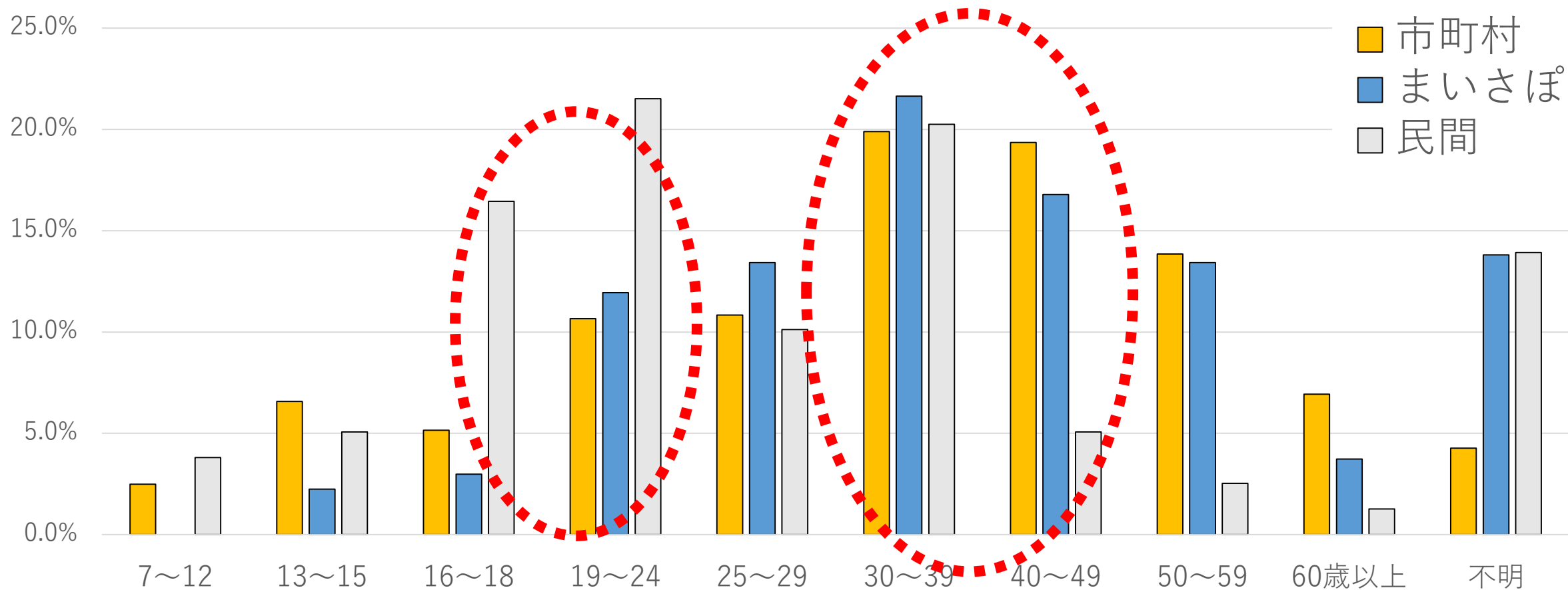
ほぼすべてのまいさぽで個別相談に対応している

民間における個別相談の対応状況



訪問支援は実施していない機関もある

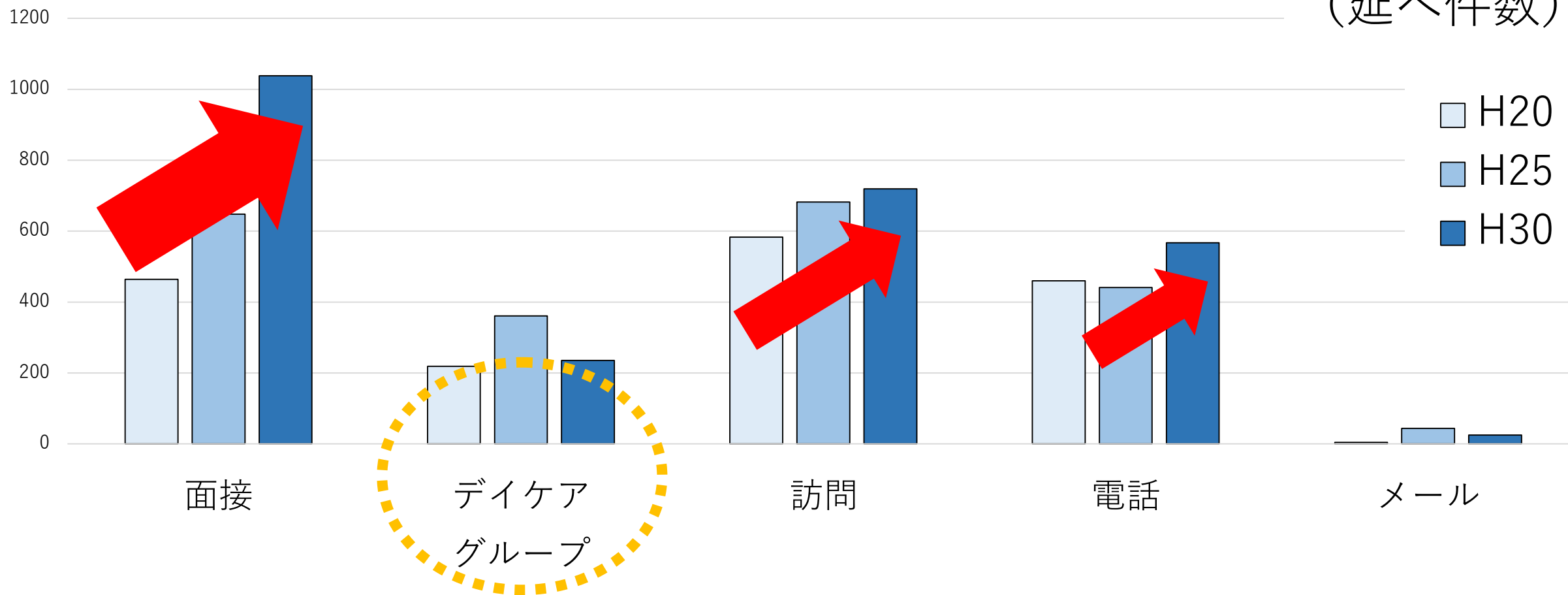
ひきこもり相談実人数（割合）



市町村・まいさぼでは30歳代、40歳代の相談が多かった。
民間では19~24歳の相談が一番多く、次いで30歳代が多かった。

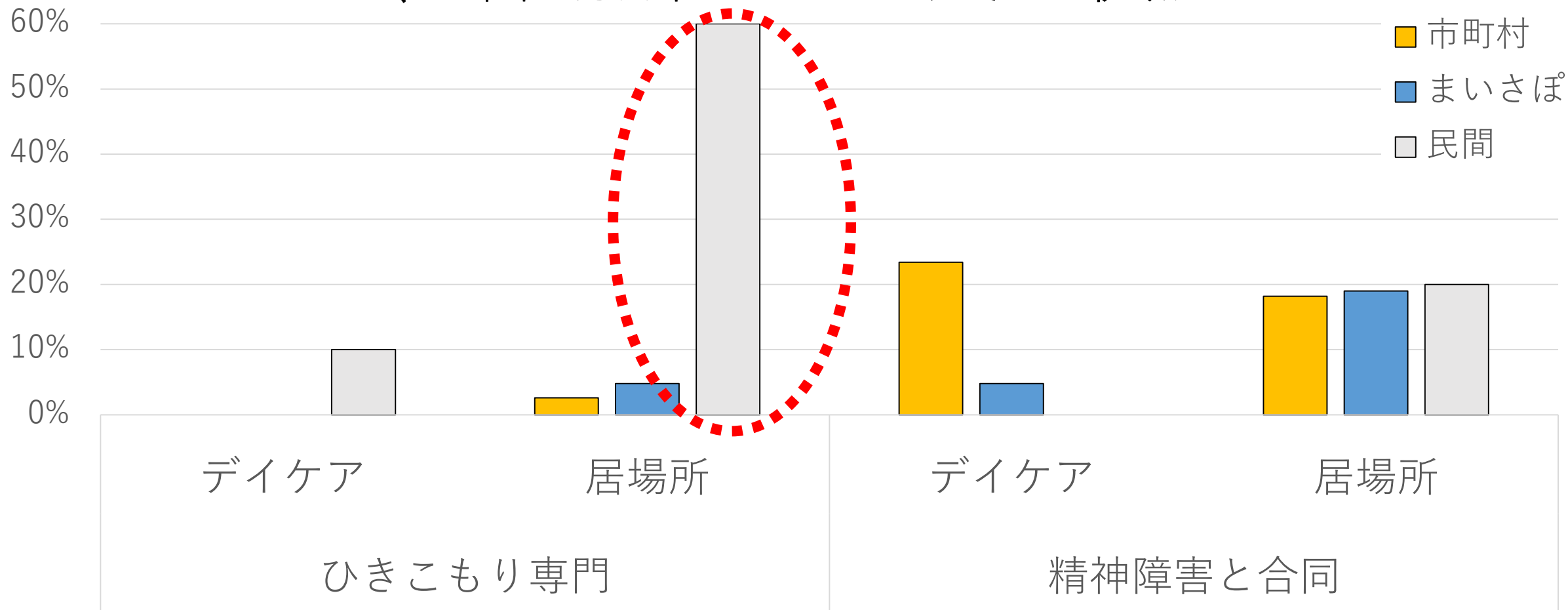
市町村ひきこもり支援実績の内訳

(延べ件数)



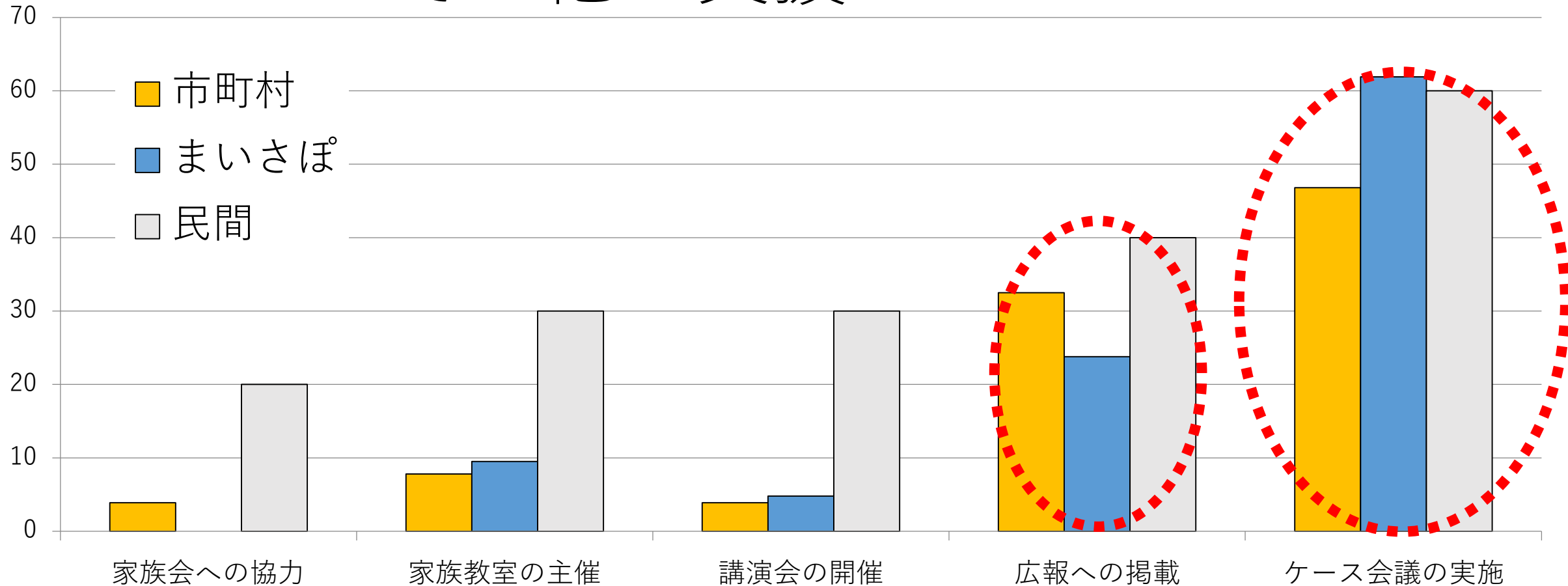
市町村における面接、訪問、電話支援実績は増加傾向にある。

デイケア、居場所などの実施状況



(不登校) ひきこもりを対象にしたデイケア・居場所は民間で多く実施

その他の支援について



ケース会議の実施や広報への掲載は多く実施されている。
家族会、家族教室、住民向け講演会の開催は少ない。

連携先として考えられる機関 (複数回答・割合)

	市町村	まいさぼ	民間	保健福祉 事務所	サポステ	サポート ネット	家族会	医療機関	センター
市町村		84.4	28.6	83.1	41.6	29.9	26.0	81.8	66.2
まいさぼ	85.7		81.0	52.4	66.7	9.5	38.1	28.6	66.7
民間	90.0	80.0	60.0	60.0	90.0	50.0	30.0	70.0	70.0

サポステ … 「若者サポートステーション」
 サポートネット… 「子ども若者サポートネット事務局」

単一の機関のみで支援を進めることは難しく、
 医療、労働、福祉など様々な分野との連携した支援が必要。

好事例に共通してみられた特徴

訪問・面接の継続	本人の支援受入れを図りつつ、 家族支援を継続した ケース
ケース会議の開催・ 情報共有	(本人・家族を含め) 定期的に ケース会議を実施したケース
他機関との連携	複数の機関が 連携し関わったケース
危機介入	本人・家族の体調不良等をきっかけに 主に医療を中心とした 継続支援につないだ ケース
就労準備支援事業等 の活用	集い、セミナー、職場体験等で自信をつけ、 段階的支援 をしたケース

ひきこもり特有の課題 H20,H25,H30共通

➤ 当事者の**相談への抵抗感**

本人に会えない、相談に来ない、困っていない

➤ 家族側の相談への抵抗、家族の孤立

家族が事実を隠そうとする／関係作りが難しい

➤ ひきこもり相談を**継続することの難しさ**

焦り・諦め／長い経過の間に担当者が変わってしまう

➤ **高年齢化**、問題の複雑化

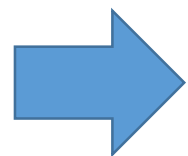
生活困窮／疾病性／家庭内暴力

支援者側の課題 H20,H25共通

➤事例が少なく、初期段階からの**支援方法が分からない**

➤相談窓口の周知や地域住民へのひきこもりに対する普及啓発が十分でない **「ひきこもりの相談窓口ってどこ？」**

人員不足など相談支援上の不安があり、周知に踏み込めない



支援者のスキルアップ、普及啓発、相談窓口の周知

支援者側の課題

特に今回の調査で目立ったこと

- 多岐にわたる課題・ニーズへの対応が求められる
→ **他機関との連携**

経済的困窮、就労支援、家庭内暴力、家族の課題・・・

- 支援の先にある**資源の不足**

家族教室、家族会、本人の居場所、段階的な就労先・・・

- **早期相談**のための啓発・体制づくり

介護や経済的な支援の必要に迫られないと相談に来ない

考察とまとめ

- ◆ 個別支援はほぼ全ての市町村、まいさぽで対応可能
- ◆ 家族会や家族教室、本人の居場所などの資源は不足
- ◆ 多岐にわたる課題・ニーズへの対応が求められる

市町村内の他部署とどう連携するか

他の機関とどう連携するか

地域としてどう支えていくか、**包括的支援の視点**

今後ひきこもり支援センターでは

(1) 市町村単位では実施しにくい事業への取り組み

圏域での家族教室などの開催・技術的協力

(2) 地域支援者への後方支援

人材育成に係る研修会の実施

支援充実に向けた情報発信、啓発

包括的な支援を見据えた関係機関とおしの連携促進